

1 派遣期日 平成22年11月5日（金）

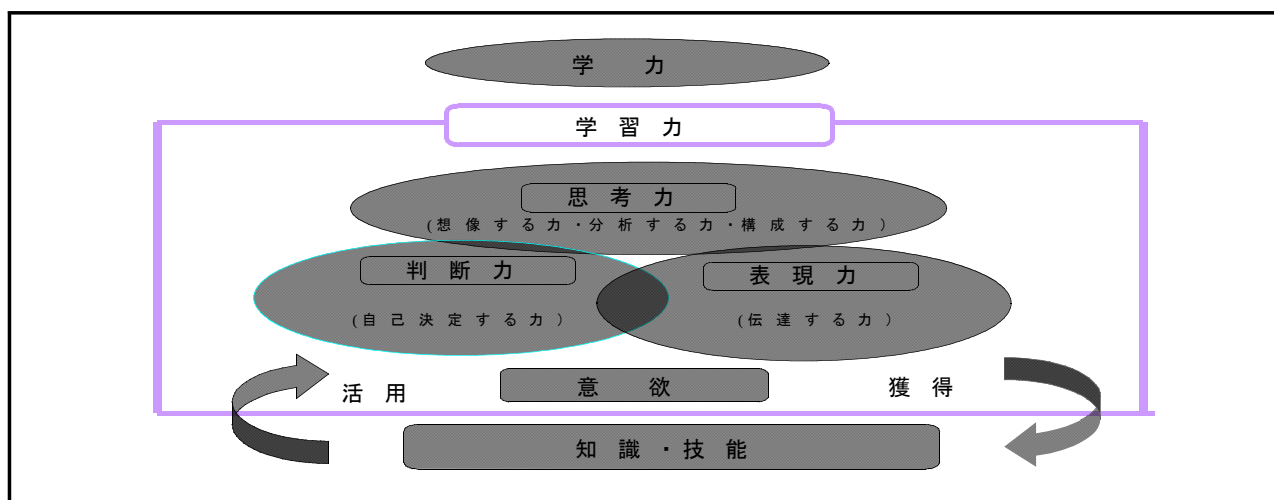
2 研修先 学校名 東京都大田区立田園調布小学校  
所在地 〒145-0071 東京都大田区田園調布二丁目31-16  
<http://academic2.plala.or.jp/dncfe/>

3 研修内容

平成20・21・22年度文部科学省学力向上実践研究推進校

「学習力を高める」～主体的に問題解決に取り組む子どもたち～

（1）学習力の定義…学ぶ意欲をもち、知識・技能を主体的に獲得し、それらを目的に達成に向けて活用していける力



（2）公開授業（全教科）

第5学年 算数「平行四边形と三角形の面積」 3学級5展開

コース1「分析する力」効果的な自己評価 指宿 孝子教諭 奥井 真美教諭

コース2「想像する力」交流の工夫 大熊 一滋教諭 有坂 奈保子教諭

コース3「構成する力」言語活動の充実 林 伸二教諭

（3）本単元を通して特に伸ばしたい学習力・学習力を高めるための手だて

- ・コース1「分析する力」…取り入れた情報を吟味，評価して読み解き，自分の考えを明らかにする。

《効果的な自己評価》

- ・よりよい考えを明らかにするために，一つ一つの考え方の優れている点をノートに記述させたりいくつかの例題と自分の考えとを比較・関連付けさせたりすることで，自己評価をする。

- ・コース2「想像する力」…既習事項などを根拠に解決の見通しをもったり，問題を多面的にとらえたりする。

《交流の工夫》

- ・多くの考えを比較・関連付けすることで数理的な処理のよさを認識できるように，意見交流の場を設ける。

- ・コース3「構成する力」…学習したことを適切にまとめる。

《言語活動の充実》

- ・発信者は自らの考えを整理・確認することができるように，受信者は他者の考え方を明確に理解することができるようにするために，考えを一般化して伝えるためのキーワードを意識させたり，考え方を説明するための文型を指導したりする。

(4) 本時の指導 (7/13 時間目) コース1 : 効果的な自己評価を中心に参観

① 学習力育成のための本時のポイント

台形の求積公式につながるような考え方を導き出すために、様々な求め方の中からどのような台形の求積場面においても適用しやすい求め方はどれかを考える場を設定する。

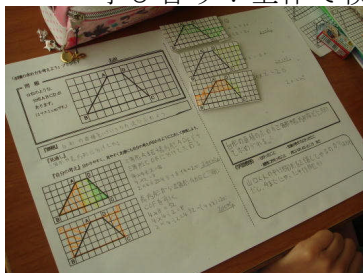
② 展開

ア つかむ：学習課題を把握する。 **台形の面積をいろいろな方法で求めよう。**

イ 見通しをもつ：各自で見通しをもつ。→平行四辺形や三角形の面積の求め方を利用すればいい。2つの三角形に分ければいい。

ウ 自力解決をする：児童から8つの考え方が出る。それぞれ、B4のワークシートに解法を図示する。3人以上の人に自分の考えを説明するよう指示する。

エ 学び合う：全体で検討する。



考え方1 : 2つの台形を合わせる。

考え方2 : 対角線で2つの三角形に分ける。

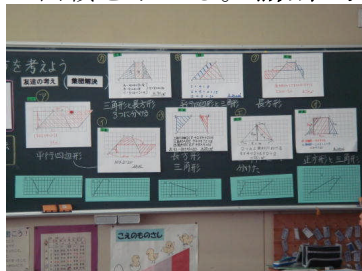
考え方3 : 平行四辺形と三角形に分ける。

考え方4 : 3つの図形に分けて考える。など

オ まとめる：台形の面積の求め方をまとめる。

**面積の求め方が分かっている図形に変形すれば、台形の面積を求めることができる。**

カ 適用練習：様々な台形の面積を求める。《効果的な自己評価》



学び合いで確認した8つの解法

から、「はかせ」 は：はやく

か：かんたん

せ：正確に

だと思ふ解き方で解く。

**分析する力**

キ 振り返る：本時の学習を振り返る。《効果的な自己評価》

(5) 研究発表会

パネルディスカッション

財団法人教育調査研究所 研究部長

寺崎 千秋先生 (司会)

文部科学省 教科調査官 (社会科)

澤井 陽介先生

帝京短期大学 こども教育学科教授 (理科)

木下 邦太朗先生

大田区立馬込第三小学校 校長 (算数科)

小家 建先生

大田区立田園調布小学校 研究主任 (国語科)

濱尾 敏恵先生

・新指導要領で育てるべき学力「思考力・判断力・表現力」→3つを関連的に捉え、一体として評価していく。

・これからの学習→問題解決的な学習：子ども自身の意欲を重視しなければならない。

・言語活動の充実が課題→言語活動は目的ではなく、手段である。

4 感想

・しっかりとした理論研究の基、問題解決的な学習を充実させ、「学習力」を向上させるための学習活動が展開されていた。

・公開授業では、児童が幾通りもの解法を導き出し、伝え合うことを楽しみ、様々な解法の中から最も「はやく・簡単で・正確な」方法を導き出していた。また、発表場面では「～なので」「なぜなら～」「～だから」と分かりやすい伝え方を意識して発表していた。

・シンポジウムでは、新指導要領でどのような力を育てることが求められているのか、それぞれの教科を例に、具体的な話を聞くことができ、有意義だった。

・配付された「学習力育成・授業力向上ハンドブック」には「学習力を高める」「問題解決的学習をつくる」「授業の腕を鍛える」具体的例が事例を挙げて説明されている。活用したい。